

1. 学生とともに進めるまちづくり

麻生キッチン“りあん”商学連携の取り組み

地域コーディネーター・かどまーる 代表 ^{きた}喜多 ^{ようこ}洋子

麻生キッチンりあんは、麻生商店街振興組合と藤女子大学食物栄養学科隈元ゼミが連携して運営しているお店です。ひとり親などのお子さんの学習支援を行い、栄養バランスのとれた食事を提案したり、毎日、お料理する人が変わるワンディシェフ方式で、将来お店を持ちたい方などにお店をまるごとお貸しし、食事を提供しています。麻生町の方に、お弁当を配達したり、料理教室やパーティー、講座などで貸出も行っています。また、商店街の方や地域の方が語り手となる“まちの教室”や“おしごとバー”というイベントを企画し、様々な人たちとの交流ができる場所を提供しています。



第1回まちの教室の様子

【きっかけ】

平成24年11月、札幌市経済局主催の「商店街活性化学生アイデアコンテスト」にて、藤女子大学生（食物栄養学科・隈元ゼミ）が準グランプリを受賞したことがきっかけでした。藤女子大学の学生が麻生に多く住んでいることで、麻生商店街振興組合に声がかかりました。

そのアイデアは、ひとり親などの子どもたちの居場所づくりと学習支援をしながら、カフェを併設し、学習支援をうけている子どもや保護者、地域の皆さんへ栄養バランスのとれた食事の提供をして、商店街を活性化しようというものでした。



藤麻人プレオープン！

【オープンまで】

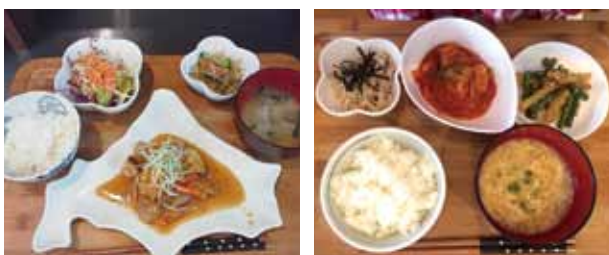
平成25年3月23日に、実験的にやってみようということになりました。商店街の空き店舗を探し、たまたま、2月で閉店するという電気屋さんをお店にすることにしました。まだ、厨房がなかったため、学校で作ったお弁当を麻生まで運び、販売しました。商店街と一緒に学生がプロデュースするお店は珍しく、新聞、テレビの取材がたくさんやってきました。地域の方たちも応援してくれ、たくさんの方たちの声援を受けました。

平成25年8月2日に、札幌市の空き店舗活用事業「コミュニティ型」として札幌市からの補助金と麻生商店街振興組合からのバックアップで、厨房を設置し、本格オープンしました。お店の名前は、「へるすたでい ^{とまん}藤麻人」。健康的な食事提供（ヘルシー）と学習支援（スタディ）の造語で、“へるすたでい”。藤女子大学と麻生が結びつくように、そして、少し前に同じ空き店舗事業で始まった「三代交流café ^{あまん}亜麻人」の妹のような存在なので、“藤麻人”と学生さんがすてきな名前をつけてくれました。お店の開設までには、たくさんの壁がありました。オープンできたのは、麻生商店街振興組合のみなさんの理解、また、このアイデアを実現させたいという学生たちと先生の熱い思いがあったからだと思っています。

【地域の様々な方たちとのひろがり ワンディシェフ】

当初、学生さんの食事提供の日が週2日とその他の日は、卒業生がヘルシーなランチやお弁当を提供していましたが、ワンディシェフという仕組みを取り入れました。プロの料理人ではない地域の住民が日替わりで、ランチを提供するシステムです。

800円のランチを20食提供し、場所代をいただき、運営費に充てるというやり方です。お料理が好きな方や将来お店を持ちたい方、自分の作った料理をみなさんに食べてほしいと思っている方などを募集しました。この呼びかけに、もと麻生で飲食店をしていたひるやさん、札幌学院大学の学生、自然栽培の野菜をつかった料理を提供したい方、野菜中心のランチを提供したい方、親子でおばんざいの料理を提供したい方などが、集まってくれました。ワンディシェフのいいところは、一人ではできないので、手伝いに入った人と交流ができる、コミュニティが広がるということです。ひるやさんに学生さんが入ることで、学生さんが、料理の学習ができたり、また、ひるやさんのお客様が、若い人と交流できたりする、すてきな関係が生まれました。藤女子の学生たちもこの方式に変えたことで、ただお料理を作るということだけでなく、経営を考えたりと主体的に取り組めるようになったと思います。20食完売してもシェフの手元には、わずかしかなかったりません。ワンディシェフの仕組みは、ビジネスの論理では割り切れない仕組みですが、新たなコミュニティの形成ということでは、商店街の活性化になっていると思っています。ワンディシェフの方式に変えたことで、平成26年5月から、お店の名称をフランス語でつながるの意味の“りあん”に変更しました。



学生がつくったランチです！

【学習支援と食支援】

学習支援の方は、NPO法人カコタムという団体と連携して行っています。そこにも学生が関わっています。藤女子の学生たちが、子どもたちとカコタムのメンバーに、栄養バランスのとれた献立を考え、食事を提供しています。また、食事をつくるだけでなく、子どもたちと一緒に食べることで、食事をする楽しさを子どもたちに伝えていきます。孤食が多い現代で、みんなで楽しく食事をするということは、子どもたちの心の成長にも良い影響を与えていますし、学生にとっても、共食（ともに食べるということ）がどんなに大切なことか実感する良い機会になっています。一緒に食べているところに、お邪魔したとき、とても楽しそうで、大切な場所を提供できているなど感じました。



ひとり親のための学習支援

2014年度の学生たちからのコメント

- ・自分たちで作成した献立に対するお客様の生の声をたくさん聴くことができました。
- ・地域の方々との交流もでき、いい経験となりました。
- ・藤麻人での活動を通じて、麻生に住んでいる方々と交流ができてとてもうれしかったです！
- ・麻生、大好きになりました♪1年間ありがとうございました！
- ・子どもたちとの共食を通して食事の楽しみを改めて学ぶことができました！
- ・地域の方々と直接触れ合え、いい経験ができました。約1年間ありがとうございました。

1. 学生とともに進めるまちづくり

【商学連携の今後】

りあんでの活動は、学生と地域の方、商店街の店主や理事の方など、様々な人と学生が触れ合える貴重な体験の場です。みんなで協力して調理したり、地域の人にあった献立を商店街の人やワンディシェフの人にも協力してもらいながら作ったり、地域の人たちからおいしい！ありがとう！がんばっているね！と声をかけられたり、時には、厳しい意見をいただいたりして生きる力を育む社会教育の場となっています。商店街にとっては、学生がまちでがんばっている場を提供することで、活気のある商店街を地域にプレゼントしています。そんなすてきな場所を提供できているあさぶ商店街は、すごいなと思います。今、商店街も地域も高齢化が進んでいます。私たちは、未来をつくる子どもたちのために、大人が協力して問題に取り組める良い機会を与えてもらっているんだなあと、思います。未来を担う子どもたちに大人たちは、何ができるか！今、地域も商店街も、力を試されています。今後も商店街と学生の連携が進むよう、様々な人たちの力を借りながら、りあんの活動を

続けられるよう力を尽くしていきたいと思えます！



皆様のお越しをお待ちしています！

ワンディシェフ募集中です！

○お問い合わせ

麻生商店街振興組合

TEL.011-707-9923

070-5048-4050（喜多）

コラム② 「コミュニティカフェ」って何!?

このページで紹介した「麻生キッチンりあん」のように、食や文化を通して人と人との「つながり」を深めていく「カフェ」のことを「コミュニティカフェ」と呼び、新たなまちづくり活動の場として注目され始めています。コミュニティカフェでは、コンサートや各種講座、地域の会議などが行われ、そこに集う人たちの憩いの場、交流の場となっています。

こうした人と人とのつながりは、日常の暮らしを豊かなものにするだけでなく、災害が起きた時や地域での子育て・見守り活動などに生かされ、地域力の向上にもつながっていきます。

あなたも身近なところにある「カフェ」に出かけてみてはいかがでしょうか？

新しい出会いがあるかもしれませんよ！

興味のある方はこちらもチェック！

<http://www.city.sapporo.jp/shimin/jichi/gugenka/cmcafe/top.html>

検索

